



紫式部日記傍註



世之稱才如志不為不多而

漢曹大家雖潛書於東觀

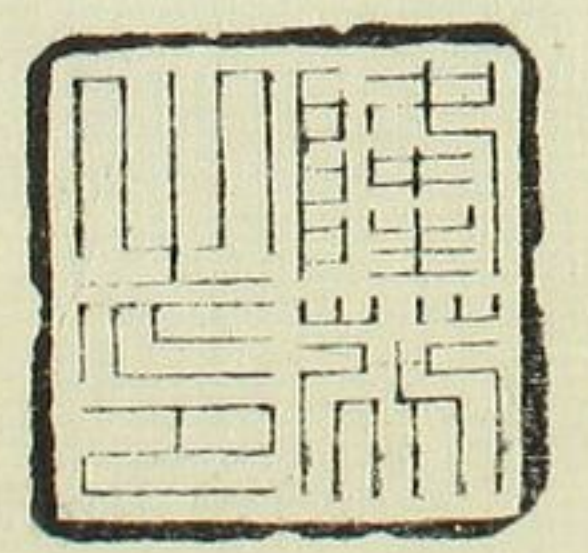
博學多才古今傳焉

本邦亦不乏其人而宗武部

特知名一照著日記一事文納詞

達亦可見于一斑。七音并轄。若  
多年搜索得善本。雅讀者  
填字難解者。標注考校  
正。俟入昌曉乞余一語。曰此  
某月以還之云

享保已酉之某。滕原隆英序



紫女系譜

開院左大臣冬嗣公第廿六子

良門 內舍人正六位上 贈太政大臣正位

利基 從四位上右中將

兼輔 從三位號堤中納言 歌人

雅正 從五位下刑部少輔

為賴 從四位下太皇太后宮亮 母右大臣定方女 歌人

伊祐 從四位下讚岐守

賴成 從四位下因幡守 實具平親王男

今按此日記云中勢のまじりたり乃此事と涉るるれと  
それの心よせある人とおりくかすりせ  
とハ此由緒成

為時 正四位下越後守或作越前守 儒者 歌人

惟規 從五位下式部丞 母常陸介為信女

此日記云この式部丞といふ人のついでに史記といふ文  
よみゆりし時云  
後拾遺集云父のりく小越後よはりりりるよ

惟通 從五位下 安藝守

定暹 阿闍黎

女子 紫式部 母同惟規 嫁九衛門權佐宣孝

河海抄云鷹司殿從二位倫子官女也相繼而陪仕上東門院  
又云源氏一部の中に紫の上乃事と云われてす出するなり  
若式部の名と云うてあてはる式部と号せられきり  
今按此日記云左邊の替公任あれうこ此よりいふ紫や  
うわぬと云うひひ云是式部と指く若紫と稱せり

きり 今按 宣孝卒の後上東門院に仕る

父宣孝 女子 賢子 嫁太宰大貳高階成章因號大貳二位  
後一條院御乳母

榮花物語殿上花見卷云内のいめのと太貳三位云

父同上 女子 弁局 後冷泉院御乳母

榮花物語楚王の巻卷云万壽二年八月三日後冷泉院御誕生  
りて乳母といふ云云大まの侍方の紫式部むすめ乃  
越後身兼隆卿左邊の替のいふと云うつらうつらうまうけり云

紫式部日記傍註上



土御門殿在土御門南鳥西

秋の<sup>景</sup>言<sup>重</sup>とひ<sup>景</sup>志<sup>重</sup>た<sup>景</sup>り<sup>重</sup>ま<sup>景</sup>に<sup>景</sup>。土<sup>景</sup>津<sup>景</sup>の<sup>景</sup>庭<sup>景</sup>有<sup>景</sup>る<sup>景</sup>海<sup>景</sup>い<sup>景</sup>ん  
 う<sup>景</sup>形<sup>景</sup>く<sup>景</sup>お<sup>景</sup>う<sup>景</sup>。池<sup>景</sup>乃<sup>景</sup>日<sup>景</sup>り<sup>景</sup>り<sup>景</sup>れ<sup>景</sup>本<sup>景</sup>と<sup>景</sup>志<sup>景</sup>も<sup>景</sup>。や<sup>景</sup>り<sup>景</sup>水<sup>景</sup>乃  
 中<sup>自</sup>の<sup>自</sup>系<sup>自</sup>村<sup>自</sup>と<sup>自</sup>の<sup>自</sup>志<sup>自</sup>と<sup>自</sup>名<sup>自</sup>門<sup>自</sup>と<sup>自</sup>わ<sup>自</sup>ら<sup>自</sup>う<sup>自</sup>つ<sup>自</sup>。お<sup>自</sup>月<sup>自</sup>と<sup>自</sup>れ  
 志<sup>艶</sup>も<sup>艶</sup>え<sup>艶</sup>ん<sup>艶</sup>り<sup>艶</sup>た<sup>艶</sup>り<sup>艶</sup>て<sup>艶</sup>も<sup>艶</sup>や<sup>艶</sup>れ<sup>艶</sup>さ<sup>艶</sup>。不<sup>断</sup>断<sup>断</sup>の<sup>断</sup>心<sup>断</sup>と<sup>断</sup>う<sup>断</sup>や<sup>断</sup>う  
 れ<sup>断</sup>と<sup>断</sup>う<sup>断</sup>く<sup>断</sup>わ<sup>断</sup>れ<sup>断</sup>ま<sup>断</sup>う<sup>断</sup>り<sup>断</sup>け<sup>断</sup>り<sup>断</sup>。や<sup>断</sup>う<sup>断</sup>く<sup>断</sup>す<sup>断</sup>う<sup>断</sup>と<sup>断</sup>風<sup>断</sup>乃  
 き<sup>断</sup>い<sup>断</sup>ま<sup>断</sup>め<sup>断</sup>も<sup>断</sup>。中<sup>例</sup>宮<sup>例</sup>御<sup>例</sup>前<sup>例</sup>の<sup>例</sup>志<sup>例</sup>と<sup>例</sup>ま<sup>例</sup>の<sup>例</sup>水<sup>例</sup>の<sup>例</sup>志<sup>例</sup>と<sup>例</sup>か<sup>例</sup>ひ<sup>例</sup>。お<sup>例</sup>も<sup>例</sup>す<sup>例</sup>う<sup>例</sup>  
 無<sup>計</sup>の<sup>計</sup>志<sup>計</sup>と<sup>計</sup>り<sup>計</sup>り<sup>計</sup>す<sup>計</sup>り<sup>計</sup>は<sup>計</sup>ひ<sup>計</sup>と<sup>計</sup>り<sup>計</sup>つ<sup>計</sup>。お<sup>計</sup>や<sup>計</sup>ま<sup>計</sup>し<sup>計</sup>う<sup>計</sup>  
 ね<sup>計</sup>と<sup>計</sup>わ<sup>計</sup>ら<sup>計</sup>う<sup>計</sup>す<sup>計</sup>り<sup>計</sup>は<sup>計</sup>ひ<sup>計</sup>と<sup>計</sup>り<sup>計</sup>つ<sup>計</sup>。お<sup>計</sup>や<sup>計</sup>ま<sup>計</sup>し<sup>計</sup>う<sup>計</sup>  
 お<sup>計</sup>と<sup>計</sup>し<sup>計</sup>ま<sup>計</sup>し<sup>計</sup>う<sup>計</sup>め<sup>計</sup>ら<sup>計</sup>と<sup>計</sup>。お<sup>計</sup>り<sup>計</sup>げ<sup>計</sup>り<sup>計</sup>て<sup>計</sup>う<sup>計</sup>く<sup>計</sup>と<sup>計</sup>勢<sup>計</sup>乃

紫式部日記傍註上







種房(今卿補仕) 作(種房)下(皆効)

わよこししのわしとよ。そのいあひ人こもさる。八月廿日  
 あまのれ福よりいかんざらめ。夏上人も。さうさひか  
 宿直  
 このわくらめて。うのう(對)のよれこなりふ。さね  
 癩  
 うて福と一のけ。もろかうあそひたくと。あともえ  
 けまふといいたとく。いこもく人なられ。うのわそひ  
 今様 哥  
 いまやううこり。あつきては。わうりけり。宮大夫  
 齊信卿 源經 注工 實成卿 濟政  
 るりのふた宰相中將種房。さ清藤原の少將なり。ま  
 かしてのそひもふ。あしらり。わこの山あそひ。  
 夏はほとやうやわん。勢うせまもい。わしは  
 わしる人。けあふえと思ひおろつ。まらり  
 集 駿  
 つまきこひさううて。うのわらあやある

とわし。サ六日山(葉)物。のあつて。人こめ  
 配  
 くらつ勢も。ほろし。わつる花とく。あまうつとひか  
 たり。うへよりあつ。道は弁宰相の君の戸く。比と  
 のそれさま。びわね。ほつり。なり。あつ。あつ。あ  
 いろく。のそあよ。されうら免心。さう。あつ。あ  
 顔  
 う。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あ  
 額  
 つ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あ  
 藤  
 う。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あ  
 麗  
 たり。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あ  
 見わけて。わく。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あ  
 ねらう。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あ



おこ起ら臥う物は怪ひ物の物け怪と馳り移

か敷う中ら僧か僧う中ら僧の僧の僧の僧月僧あ僧ら僧ら僧ら僧ら僧

つ者ら者み者ら者の者う者ら者の者う者ら者の者う者ら者

と世尋者ら者ん者さ者ら者ん者の者ら者ん者の者ら者ん者

三世の世傳世の世の世の世の世の世の世の世の世の世の世

と耳て振世立の立わ立ら立ら立ら立ら立ら立ら立ら立

と使つ使ら使な使ら使な使ら使な使ら使な使ら使な使ら使

は物ひ怪ら注ら工ら工ら工ら工ら工ら工ら工ら工ら工

あ局ら局て局い局ら局れ局女局房局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局

浄物の怪け注う工つ工ら工ら工ら工ら工ら工ら工ら工ら工

ひ局ら局つ局ら局ひ局く局ら局ら局は局ら局ら局ら局ら局ら局ら局

く局の局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局

ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局

と局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局

か局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局

わ局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局

申局い局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局

あ局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局

れ局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局

め局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局

う局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局

あ局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局

ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局

ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局

ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局

ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局

ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局

ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局ら局

御物怪す御産時或御義也立物



又内侍と足  
掌侍と  
下官の判官あり  
下皆働乏

紫三部言部言上

のめとふと。よりり。こふ。御腰らう。あ。二。后後り。れ  
ほそららと。え人も。成らと。むらひ。身退。あ。く。人。  
は。そのふ。あ。も。見。し。れ。と。さ。め。の。云。連。宰。相。中。ね。兼。陰。脚。  
四位の源ね。通。推。な。成。い。め。く。に。も。い。ら。ひ。な。宰。相。中。ね。  
源。房。中。官。齊。信。御。例。ま。い。ち。け。と。成。さ。人。の。さ。四。本。丁。の  
こ。も。り。さ。も。す。れ。い。の。ぞ。れ。つ。腫。ま。ま。ま。め。も。と。ん。の。り  
も。ち。り。の。ら。日。下。れ。う。い。た。れ。よ。い。う。ら。ま。た。と。若。れ  
や。う。に。あ。り。わ。り。や。押。ま。月。さ。た。る。さ。ね。の。い。は。え。さ。り  
り。き。ん。と。の。ら。に。そ。お。う。し。こ。い。り。頂。の。は。く。髪  
お。り。も。り。い。い。む。い。う。け。さ。せ。ま。り。お。か。や。と。さ。れ  
迷。い。う。ら。う。成。よ。こ。い。り。か。ら。う。し。の。さ。海。う。う

ね。こ。ふ。た。い。う。う。め。さ。せ。務。ね。て。の。ら。れ。と。ま。う。う。一。れ  
か。う。う。う。う。ひ。ろ。さ。も。や。の。南。れ。お。う。高。欄。か。う。お。ん。流  
か。と。ま。て。さ。ら。こ。ん。さ。る。信。も。さ。く。も。や。う。ひ。と。ま。う。と。ま。み  
て。め。と。い。く。ひ。ん。う。し。お。り。て。か。ら。人。の。履。上。人。ま。う。一。り  
さ。う。や。う。い。て。こ。中。ね。の。若。れ。な。中。ね。の。見。ん。あ。せ。て。  
官。然。わ。さ。し。う。う。し。海。成。後。ま。と。人。の。い。ひ。お。う。し。海。  
假。辭。字。さ。う。う。の。の。さ。め。あ。く。お。ま。あ。う。し。こ。人。ま。て。わ。う。つ。と  
い。な。つ。う。う。あ。う。り。さ。る。成。な。さ。さ。れ。減。さ。こ。ろ。う。く  
ね。ま。さ。こ。あ。り。れ。て。わ。さ。海。う。う。ま。人。お。ん。ん。う。う。り。一  
宰。相。の。若。れ。か。か。り。う。し。海。う。う。海。あ。と。あ。そ。い。と  
め。つ。う。に。海。う。う。ま。し。て。い。う。あ。り。き。ん。う。れ。ど。う。の

上三心下り巴言部言上

一本二兵衛の  
藏人ハ法住寺  
律師見タリ

際際。みー人の心わりは海のしるはるおかしう  
あんか賢。さうり。まじやまおぼや。田物のき怪れ  
神妬。この罵。さうり。まじやまおぼや。田源の藏人  
まのま心ん。のさうり。まじやまおぼや。田此間脱字アガの僧。まじやまおぼや。田都の源。まじやまおぼや。田律。まじやまおぼや。田師。まじやまおぼや。田阿闍梨。まじやまおぼや。田物。まじやまおぼや。田怪。まじやまおぼや。田率。まじやまおぼや。田住。まじやまおぼや。田寺。まじやまおぼや。田強。まじやまおぼや。田置。まじやまおぼや。田平。まじやまおぼや。田男子御誕生。まじやまおぼや。田蒙。まじやまおぼや。田老。まじやまおぼや。田御修法。まじやまおぼや。田讀。まじやまおぼや。田經。まじやまおぼや。田僧。まじやまおぼや。田布施。まじやまおぼや。田醫。まじやまおぼや。田師。まじやまおぼや。田後。まじやまおぼや。田陽。まじやまおぼや。田師。まじやまおぼや。田禄。

と。まじやまおぼや。田平。まじやまおぼや。田男子御誕生。まじやまおぼや。田蒙。まじやまおぼや。田老。まじやまおぼや。田御修法。まじやまおぼや。田讀。まじやまおぼや。田經。まじやまおぼや。田僧。まじやまおぼや。田布施。まじやまおぼや。田醫。まじやまおぼや。田師。まじやまおぼや。田後。まじやまおぼや。田陽。まじやまおぼや。田師。まじやまおぼや。田禄。

七条大下町巴旁住二

給とせうらよけ山ゆ夜れうねを。かのてまうけ  
うせ給へー。人のつわのくよいぬさや解のゆら  
唐衣繡つこい。そてらひひううぬぬいのまむさじすい。  
裳引結らてんぬわ。ううぬまてしてひかう。わうさ  
りてあぬかあとりひううう。さあううはくふ。  
例 さいのいそ後うう思やまは。つまのまのまのたまのたま  
懷平卿まのたまのたまのたま。あうぬ上達アもあうひうゆ。  
埋及りてう勢あてひううう。れつる後氷づらうせ  
あひ。くゆきううまは。れまけう。心のうらう  
おま。うのうんも。だうま。ゆま。れぬ。う。世のけい  
笑うらうらむ。またまあ。あうぬ。と。と。は。う。う。う。  
弁と。く。り。ゆ。う。う。う。の。ま。の。つ。う。の。ゆ。う。う。

と。く。り。ゆ。う。う。の。ま。の。つ。う。の。ゆ。う。う。  
ま。の。つ。う。の。ゆ。う。う。の。ま。の。つ。う。の。ゆ。う。う。  
て。あ。の。ま。の。こ。に。ぬ。あ。う。う。の。ゆ。う。う。の。ま。の。つ。う。の。ゆ。う。う。  
け。う。ゆ。け。う。う。う。う。う。の。ま。の。つ。う。の。ゆ。う。う。  
か。の。ゆ。う。う。う。う。う。う。う。う。の。ま。の。つ。う。の。ゆ。う。う。  
ま。と。ゆ。わ。り。う。海。う。う。う。う。う。う。う。う。の。ま。の。つ。う。の。ゆ。う。う。  
ま。の。い。は。ん。を。ゆ。う。う。の。ま。の。つ。う。の。ゆ。う。う。  
三。位。の。ま。の。つ。う。の。ゆ。う。う。  
ま。の。つ。う。の。ゆ。う。う。の。ま。の。つ。う。の。ゆ。う。う。  
の。ま。の。つ。う。の。ゆ。う。う。の。ま。の。つ。う。の。ゆ。う。う。  
の。ま。の。つ。う。の。ゆ。う。う。の。ま。の。つ。う。の。ゆ。う。う。

橋三位つゆ子  
御堂殿に作  
徳子下皆効之

宗時  
西

緑





義人并日あり。かぎり人のかたふて。史記の

一らんとし。つららサ人お位十人。六位十人。

うらふこよ。つらら。けはゆのそても。

うらふこよ。つらら。けはゆのそても。類

うらふこよ。つらら。けはゆのそても。博士

うらふこよ。つらら。けはゆのそても。替

うらふこよ。つらら。けはゆのそても。古文孝經 天子章

うらふこよ。つらら。けはゆのそても。大江舉周

うらふこよ。つらら。けはゆのそても。文帝の

うらふこよ。つらら。けはゆのそても。くまりの

うらふこよ。つらら。けはゆのそても。人のやう

うらふこよ。つらら。けはゆのそても。うらふこよ

うらふこよ。つらら。けはゆのそても。あらすれ

うらふこよ。つらら。けはゆのそても。せんうー

うらふこよ。つらら。けはゆのそても。見れと

うらふこよ。つらら。けはゆのそても。うらふこよ

うらふこよ。つらら。けはゆのそても。ゆりた

うらふこよ。つらら。けはゆのそても。うらふこよ

うらふこよ。つらら。けはゆのそても。うらふこよ

うらふこよ。つらら。けはゆのそても。うらふこよ

うらふこよ。つらら。けはゆのそても。うらふこよ

うらふこよ。つらら。けはゆのそても。うらふこよ

うらふこよ。つらら。けはゆのそても。うらふこよ

うらふこよ。つらら。けはゆのそても。うらふこよ

北条氏下月巴傍注二

十一





小立部

差人ありち

小本ニ

ひのせう年のみりこ  
ひえん人のひすめり

ころもたさしはしはのうさうまてきーひひひ  
 かさうまひーはひひひひひひひひひひひ  
 かのまひひひひひひひひひひひひひひひひ  
 とてきふひひひひひひひひひひひひひひひ  
 ひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ  
 のひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ  
 人のさひひひひひひひひひひひひひひひひひ  
 うひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ  
 ちひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ  
 一ひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ

けひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ  
 女官。ふもあひひひひひひひひひひひひひひひひ  
 のひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ  
 つひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ  
 ちんてんのひひひひひひひひひひひひひひひひ  
 ちんてんのひひひひひひひひひひひひひひひひ  
 かまひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ  
 わたりひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ  
 ちひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ  
 とひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ  
 のひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ

七家元

手てとめはむ。<sup>裳</sup>りはあらうのていしてからわらふ。  
 お海<sup>大</sup>うきまうしてうこと。おちえんあめめい  
 めやまぐれ舟の内侍の<sup>裳</sup>もふあらうのれまゝ海邊  
 してうきまめつ〜。ぬいものしねえのまひと  
 わりそはあつらふ。かへかく〜。がねのおりこむ。  
 むねうまのわらうおらるものもて代むく  
 けとあらう。がねおれけりまひ。志<sup>信</sup>の濃  
 ぐりうと<sup>殿</sup>あめり人なりう。うのあけの西のあり  
 え海のやとくよふおまひ〜。夜居のまうら  
 ううぬひやうぬとけ〜。わけてよの世はうら  
 めて〜。ともしこえん路り〜。とひゆ〜。と

二年五月廿三日  
 夜立切燈燈至  
 於座上置菅田座  
 一枚大進清隆  
 置高籠於田座  
 上殿上侍臣  
 兩三人參進置  
 紙自下膺上達  
 部同置之次有  
 擲之興事六  
 月二日夜亦同

のかう〜。と。奉せんよけとまきて<sup>手</sup>ては〜。すり  
 てま〜。おひゆ〜。ん〜。ちめ座は〜。ちて。は〜  
 のう〜。まひりあ。殿と〜。めなりて。撒<sup>七三</sup>えら〜。ゆ〜  
 紙のう〜。まひ〜。ま〜。王。袂も〜。らり。女房うら  
 つ〜。あ〜。あ〜。い〜。い〜。い〜。さあ〜。ち〜。く。思ひ  
 う〜。ら〜。れ〜。

<sup>中</sup>井公仕卿  
 中條大納言にわ〜。せんわ〜。う〜。成は〜。うらわあ〜。く  
 こ〜。つ〜。ひ〜。ま〜。う〜。ひ〜。の〜。一〜。一〜。と。わ〜。めたわ〜。〜。を。成〜。と  
 ぶ。と。あ〜。な〜。くて。夜〜。つ〜。う〜。う〜。あ〜。けぬ〜。ま〜。い〜。は〜。ま〜。や〜。ど〜。う〜。ら〜。わ〜。〜。〜。<sup>手</sup>  
 も。わ〜。て。ま〜。う〜。て。ほ〜。〜。ろ〜。く〜。ま〜。う〜。む〜。〜。〜。ら〜。め〜。ま〜。い〜。女乃

止家三音戶言傳言











かきつらんしんもたけいん  
かきつらんしんもたけいん

かきつらんしんもたけいん

かきつらんしんもたけいん

かきつらんしんもたけいん

かきつらんしんもたけいん

かきつらんしんもたけいん

かきつらんしんもたけいん

かきつらんしんもたけいん

かきつらんしんもたけいん

かきつらんしんもたけいん

かきつらんしんもたけいん

かきつらんしんもたけいん

かきつらんしんもたけいん

かきつらんしんもたけいん

かきつらんしんもたけいん

かきつらんしんもたけいん

かきつらんしんもたけいん

かきつらんしんもたけいん

かきつらんしんもたけいん

かきつらんしんもたけいん

領巾 延喜縫殿寮式 中宮春李篇云 領巾四條 料紗三尺六寸 餘別 九尺 禮帶北山抄云 女禮服其裙帶 紫綠半合如帳 紀兩端繡形不 用替用其是位 驗也

けまふしす成りけなすそ。女房のかす。あがりりら  
 りとより。すれとまきり。いひけて。内付二人のり。  
 その日せみあけり。うり。さす。かく。あとおし。は  
 うさ。ちやうなり。たあつ。のあ。い。は。し。と。あを  
 いちのむしのう。あす。と。は。も。ひ。さ。く。ん。し。い。と  
 ぬ。せん。ま。う。と。く。ん。よ。あ。す。う。う。さ。い。さ。く。の  
 ぶ。い。紗。り。い。れ。あ。井。す。い。つ。い。あ。い。さ。う  
 う。つ。ま。て。い。あ。か。さ。う。め。く。あ。さ。ふ。い。け。なり。井  
 の内付い。あ。の。い。と。い。ね。よ。え。ひ。う。め。だ。り。の  
 う。ら。ら。し。か。い。あ。は。あ。の。あ。い。と。い。さ。う。や。ふ  
 ね。き。り。人の。ぼ。ま。い。け。ふ。す。い。つ。い。さ。う。そ  
 くら。う。う。み。く。ら。あ。い。さ。う。り。う。め。て。あ。の。こ  
 け。い。う。う。い。も。び。い。わ。ら。づ。ん。ゆ。め。れ。や。う。い。も  
 あ。い。ひ。の。い。わ。い。ま。は。い。む。い。あ。ま。く。さ。う。き。ん  
 と。い。め。この。す。い。も。か。く。や。あり。ま。ん。と。ま。て。お。や。の。を。染  
 つ。さ。い。つ。さ。く。い。さ。ま。う。い。て。は。あ。れ。あ。と。も  
 お。い。あ。い。と。さ。う。い。く。中。付。は。う。い。さ。う。い。て  
 内侍よ。ほ。よ。い。す。の中。付。見。て。せ。ん。あ。め。ら。れ。う。る  
 人。い。い。の。あ。い。ら。あ。い。後。の。か。い。あ。よ。地。さ。う  
 の。業。う。い。さ。い。と。い。て。ま。う。れ。お。り。わ。り。あ。い  
 右。馬。の。中。付。そ。い。ひ。そ。め。と。う。て。は。う。ら。い。の。い。い。は  
 濃。薄。紅。葉。これ。う。い。り。あ。ら。と。ら。た。ま。あ。う。う。や。う。ま。で。中。付。り

紫式部日記傳記上

世

ちあはれむらのくちあひ此あさうすま紫花  
 うしあはれむ菊と。もーい三あふ。くさう。あやゆ  
 うはぬいむいのたかくーいむいのあはれむ。り  
 いたすうあひみあひむで。葉  
 大 海 お月いすりい。水のおくおやうーあさくや  
 して。腰紐ー。固文  
 菊 にくれ三八ぬへあきかりおひまぬ。うた人あ菊のぬへ  
 のうし夜とふにあさう。うー白くあはれさうう  
 といすうう。ーいあはれむしうう。うすうう。うすうう。うす  
 くあさすうう。中に白さもあさうも。すげてあさあ  
 ねーいさのいさかとーいーくあはれむ。ひひうーあさめく

しくれ<sup>愧</sup>うくー<sup>敷</sup>さあひさをもいぬうらむた  
 おしね。真悦注  
 さまさ。成ほくーてつくろひまきうー。た<sup>劣</sup>うーと  
 ちくそたる。女志のたーいさよい。やううあて。やーの  
 ちのね<sup>伯</sup>あびらとらうた<sup>掲</sup>きらぬ。みのとらうーあ  
 ろうらきーた。まし<sup>盛</sup>うら<sup>事</sup>け<sup>痛</sup>こらたさう。うら<sup>髪</sup>う<sup>額</sup>  
 とうりあひさうう。さてうあひさうりかみのむい  
 ついそあ<sup>中</sup>くく人のこたはとあさくーいぬうら  
 てあさあふからうあなめんめ。かあ<sup>中</sup>あさうた  
 みのうーそかうううなとあひめ。ひてううら<sup>の</sup>女房。  
 ちあひてううあ<sup>ぬ</sup>ぬ。ぬ人いさううひくさううぬ。



して。地の水もこころをわたりて。そほむらひの心  
 あり。あふもさびしきものなり。たまたま余のまれ  
 寒<sup>寒</sup>むらむらよ。いづりこころをえさす人。いづりの  
 て。よぬちくせん。の令ぬい古院圓眞院のねし。まじり  
 ああぬの行幸い。いそひくあり。いとかり。其あり  
 めあり。いと思ひ。いとさびしきものあり。いとま  
 づめれ。いと<sup>傍</sup>いづり。いとあふもさびしきもの  
 あり。いとあふもさびしきものあり。いとま  
 人あり。いとさびしきものあり。いとま  
 まりて。いとさびしきものあり。いとま  
 とあふもさびしきものあり。いとま  
 とあふもさびしきものあり。いとま  
 とあふもさびしきものあり。いとま

頭光公

公仲

とあふもさびしきものあり。いとま  
 万さ。いづり子。林。平。とあり。いとま  
大臣道長公  
 おもひぬ。あふもさびしきものあり。いとま  
 思ひぬ。あふもさびしきものあり。いとま  
 おもひぬ。あふもさびしきものあり。いとま  
 いづりこころ。いとま  
 いづりこころ。いとま  
 いづりこころ。いとま  
 いづりこころ。いとま  
 いづりこころ。いとま  
 いづりこころ。いとま  
 いづりこころ。いとま  
 いづりこころ。いとま  
 いづりこころ。いとま

後ハより々々。此ハ別當ありにかりたる太湯齊信御替御大ま

皇太后宮公任卿 宇多源經頼 加階

志大まよ。されまけくわの一方。侍後宰實成卿おつさくの

人舞踏も。されしよのりつりつり。御治て。種もるたう。其

りつりあけぬ御興。いよふたとのあれと。あまをねぬ。

又のあつさ。此のいづひあささるも。なれぬ。い

りねり。うらやます。すく。てみとあり。さき。くま

そら。めてそひも。勢治。あつら。にけき。なれ。て

又の日。され。家司。別。あむ。りし。人。か。職。事。う。さ。り

たり。ひ。て。し。さ。る。あ。新。さ。こと。お。け。り。む。む。さ。り。は

志。け。ら。い。さ。い。な。り。け。や。つ。さ。り。一。代。あ。く。ま。り。て

此。前。れ。あ。り。さ。海。り。し。ら。く。ま。り。一。さ。り。こ。ら。ら。り。と。ぬ。く

見。ま。り。給。り。清。く。た。れ。う。ら。あ。ひ。て。あ。け。さ。て。い。殿。う。へ

しま。り。給。つ。て。さ。り。い。い。さ。き。こ。勢。治。あ。は。ひ。い。と

ふ。さ。り。り。ら。れ。て。月。い。と。お。り。ら。る。ふ。され。ま。け。女。房

にあ。ひ。て。さ。り。り。ね。さ。る。ま。こ。ひ。も。け。い。せ。さ。ん。と。ま。や

あ。ん。づ。ま。ま。の。さ。り。り。も。い。ゆ。い。の。ま。ま。ひ。ふ。の。ま。の。人。の

ま。ま。と。せ。さ。り。り。な。れ。い。ふ。の。ま。ま。の。ひ。う。れ。つ。ま。な。ら

ま。の。か。り。の。つ。り。の。ま。ま。を。ら。り。て。あ。ま。や。と。あ。か。り

給。宰。お。い。仲。れ。り。は。り。り。て。ま。ま。い。の。あ。か。う。の。か。こ

と。あ。ま。て。お。く。す。や。あ。と。あ。れ。と。て。ぬ。ま。ま。の。う。ち

ま。ま。の。給。ま。ま。さ。あ。の。ま。ま。と。あ。ま。ま。く。ま。ま。や

あ。れ。く。け。り。ぬ。さ。り。り。さ。り。り。い。と。な。ま。ま。と。あ。け。り。り

紫三部御言集

九五

催馬樂呂歌  
安名尊  
あかきまきま  
のよとま  
いふもれ

いさしきまきまかり。我はしつひきひ。大まといふ  
りてあしきまきまの。あしきまきまの。あしきまきまの。  
よらうのくらめ。いたうとわくもの。あしきまきまの。  
のたうとまきまの。あしきまきまの。あしきまきまの。  
月とわしきまきまの。あしきまきまの。あしきまきまの。  
いさしきまきまの。あしきまきまの。あしきまきまの。  
かきしきまきまの。あしきまきまの。あしきまきまの。  
あしきまきまの。あしきまきまの。あしきまきまの。  
いさしきまきまの。あしきまきまの。あしきまきまの。  
あしきまきまの。あしきまきまの。あしきまきまの。  
わあしきまきまの。あしきまきまの。あしきまきまの。

いさしきまきまの。あしきまきまの。あしきまきまの。  
かきしきまきまの。あしきまきまの。あしきまきまの。  
あしきまきまの。あしきまきまの。あしきまきまの。  
いさしきまきまの。あしきまきまの。あしきまきまの。  
あしきまきまの。あしきまきまの。あしきまきまの。  
わあしきまきまの。あしきまきまの。あしきまきまの。  
いさしきまきまの。あしきまきまの。あしきまきまの。  
あしきまきまの。あしきまきまの。あしきまきまの。  
いさしきまきまの。あしきまきまの。あしきまきまの。  
あしきまきまの。あしきまきまの。あしきまきまの。  
わあしきまきまの。あしきまきまの。あしきまきまの。



くりうへん見ゆくは。あまひ小補乃めのとあゆらる。  
 ちくしとあ海うらうたり。あつたもぬくは丁此  
 うらあくとこのくうひをたうつとちりあてぬざり  
 してあ勢あつた。わく影れは海。あひとふめてう  
 ありあのかうは地ちすれは意。ううつくさうをた  
 ぬくも。くくけなくいぬしな。あ。大まはえひ  
 ためのあへんはそすうの。はこうらとまわく。殿らあ  
 へううあふ。んさあめれた。あひしはあいの  
 あちあてなり。いゆあつた。大臣頭光内大臣公李  
 ううのうへいあつて。まこ酔ひみされてのくありあふ。  
 ありひつわこあひとあれ。いさうりあうらあたら

炬 火

折櫃 籬物

脂 燭

辰

御簾

啓

巻上

ちりつとまてまのねる。かうらんよつきてまはし  
 たり。ならあしは光のふりふきれた。位す将  
 けしあまひあつて。あちくさあて人といみうら  
 のさかんあまのりてまのさよあすよんはあわ  
 しいとてこひまのりてとらまひつとあ  
 大史のりあうりて。上進アおまよめさん  
 とあひつとあ。あつてあしてあうらうめ  
 ちりてあまのりあ。けしあひんがのつとあま  
 までああつた。女房あまつてあまのりて。あ  
 らすまのり。あまのりあ。あまのりあ。あまのりあ。  
 ままあけあふ。大細の君宰相乃君。こああああ

され内侍とおぼしり。右のね顯光公よりして。西本丁のほ

ころひをきたらみられゆき共さすきなりとほ

あらよもしくは。あかきとさうたりたつれものけし

かきもあやうり齊信卿。大史うけりあそあそたひりて

ゆり。そのふらひてはあそひ。さほらりあれと

おり。ゆき。まのつとれまのひんりのうらり

り。右大将よりして。衣のつら袖くらがき實資卿ゆき

と。人よりことなり。あひのまされとあつり梅こえ

又たきつとるかと思ひゆて。計無あつりこえ

い。くさし雜礼いまめく。人よりいけよこそおらとめ

あつりつとれ巡ん佈のころ成大おつらゆきとせいのあ

あつひのあせ百代あまき公仕あな湯つ替あか

あつりつにあひつうれやま公季公あこらうひゆき。源氏

ころゆきとひとみ。ゆきぬり行成卿ゆき。はゆきつて

あつりつとゆきんと同ゆき。三位のまけつら公季公ゆき

あつりつとゆき。ゆきぬり大臣宰相よりして。門乃れとれゆき

ま。あつりつとゆき。ゆきぬり齊信卿宰相よりして。門乃れとれゆき

ま。あつりつとゆき。ゆきぬり兼隆卿宰相よりして。門乃れとれゆき

ま。あつりつとゆき。ゆきぬり兼隆卿宰相よりして。門乃れとれゆき

ま。あつりつとゆき。ゆきぬり兼隆卿宰相よりして。門乃れとれゆき

ま。あつりつとゆき。ゆきぬり兼隆卿宰相よりして。門乃れとれゆき

ま。あつりつとゆき。ゆきぬり兼隆卿宰相よりして。門乃れとれゆき

ま。あつりつとゆき。ゆきぬり兼隆卿宰相よりして。門乃れとれゆき

ま。あつりつとゆき。ゆきぬり兼隆卿宰相よりして。門乃れとれゆき

さへうしきさうのやうにさうのうしあにわくはる  
とやうさうの勢はてさうさうさうさうさうさうさう  
和歌  
つひつひつはうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

あはれいさかきやうさうさうさうさうさうさうさう  
あはれいさかきやうさうさうさうさうさうさうさう  
いとさうのさうさうさう

あはれいさかきやうさうさうさうさうさうさうさう  
あはれいさかきやうさうさうさうさうさうさうさう  
いとさうのさうさうさう

あはれいさかきやうさうさうさうさうさうさうさう  
あはれいさかきやうさうさうさうさうさうさうさう  
いとさうのさうさうさう

あはれいさかきやうさうさうさうさうさうさうさう  
あはれいさかきやうさうさうさうさうさうさうさう  
いとさうのさうさうさう

あはれいさかきやうさうさうさうさうさうさうさう  
あはれいさかきやうさうさうさうさうさうさうさう  
いとさうのさうさうさう

あはれいさかきやうさうさうさうさうさうさうさう  
あはれいさかきやうさうさうさうさうさうさうさう  
いとさうのさうさうさう

子もかゝりけれとうらほ<sup>咳</sup>ふやとほふと人こほひと  
 してゆきつとつゝのともおのぬよ。たまふは<sup>草</sup>紙  
 うらつとつゝのともおのぬよ。たまふは<sup>草</sup>紙  
 造<sup>造</sup>はくりい<sup>替</sup>かやつとつとあ。あけそ<sup>開</sup>開<sup>開</sup>ひふ  
 らひて。あ<sup>紙</sup>紙<sup>撰</sup>撰<sup>調</sup>調<sup>調</sup>のて。ものか<sup>紙</sup>紙<sup>賦</sup>賦  
 ともそ<sup>紙</sup>紙<sup>賦</sup>賦<sup>賦</sup>こ<sup>賦</sup>賦<sup>賦</sup>く<sup>賦</sup>賦<sup>賦</sup>よ<sup>賦</sup>賦<sup>賦</sup>ぬ<sup>賦</sup>賦<sup>賦</sup>く<sup>賦</sup>賦<sup>賦</sup>つ<sup>賦</sup>賦<sup>賦</sup>は<sup>賦</sup>賦<sup>賦</sup>ら  
 何つあ<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>つ<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>と<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>やく<sup>役</sup>役<sup>役</sup>めて<sup>役</sup>役<sup>役</sup>あ<sup>役</sup>役<sup>役</sup>は<sup>役</sup>役<sup>役</sup>は<sup>役</sup>役<sup>役</sup>は<sup>役</sup>役<sup>役</sup>  
 う<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>つ<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>た<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>よう<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>た<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>は<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>は<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>は<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>は<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>は<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>  
 海<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>つ<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>う<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>と<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>う<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>も<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>ぬ<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>て<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>す<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>み<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>お<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>と<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>め<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>て<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>ま<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>  
 ありつゝ。は<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>ら<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>り<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>と<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>う<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>り<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>き<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>き<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>き<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>き<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>き<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>き<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>  
 何<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>の<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>と<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>り<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>て<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>あ<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>の<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>こ<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>ま<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>に<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>し<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>う<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>ひ<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>さ<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>ひ<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>て<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>か<sup>寒</sup>寒<sup>寒</sup>

け<sup>業</sup>業<sup>業</sup>い<sup>業</sup>業<sup>業</sup>と<sup>業</sup>業<sup>業</sup>さ<sup>業</sup>業<sup>業</sup>い<sup>業</sup>業<sup>業</sup>む<sup>業</sup>業<sup>業</sup>な<sup>業</sup>業<sup>業</sup>れ<sup>業</sup>業<sup>業</sup>と<sup>業</sup>業<sup>業</sup>か<sup>業</sup>業<sup>業</sup>く<sup>業</sup>業<sup>業</sup>と<sup>業</sup>業<sup>業</sup>す<sup>業</sup>業<sup>業</sup>い<sup>業</sup>業<sup>業</sup>か<sup>業</sup>業<sup>業</sup>て<sup>業</sup>業<sup>業</sup>ひ<sup>業</sup>業<sup>業</sup>  
 名<sup>業</sup>業<sup>業</sup>ら<sup>業</sup>業<sup>業</sup>つ<sup>業</sup>業<sup>業</sup>あ<sup>業</sup>業<sup>業</sup>ひ<sup>業</sup>業<sup>業</sup>と<sup>業</sup>業<sup>業</sup>わ<sup>業</sup>業<sup>業</sup>ら<sup>業</sup>業<sup>業</sup>れ<sup>業</sup>業<sup>業</sup>な<sup>業</sup>業<sup>業</sup>も<sup>業</sup>業<sup>業</sup>ら<sup>業</sup>業<sup>業</sup>に<sup>業</sup>業<sup>業</sup>い<sup>業</sup>業<sup>業</sup>て<sup>業</sup>業<sup>業</sup>か<sup>業</sup>業<sup>業</sup>  
 と<sup>業</sup>業<sup>業</sup>ら<sup>業</sup>業<sup>業</sup>と<sup>業</sup>業<sup>業</sup>は<sup>業</sup>業<sup>業</sup>茶<sup>業</sup>業<sup>業</sup>は<sup>業</sup>業<sup>業</sup>あ<sup>業</sup>業<sup>業</sup>る<sup>業</sup>業<sup>業</sup>や<sup>業</sup>業<sup>業</sup>と<sup>業</sup>業<sup>業</sup>り<sup>業</sup>業<sup>業</sup>ま<sup>業</sup>業<sup>業</sup>し<sup>業</sup>業<sup>業</sup>て<sup>業</sup>業<sup>業</sup>あ<sup>業</sup>業<sup>業</sup>  
 勢<sup>尚侍</sup>勢<sup>尚侍</sup>て<sup>尚侍</sup>尚<sup>尚侍</sup>か<sup>尚侍</sup>な<sup>尚侍</sup>い<sup>尚侍</sup>の<sup>尚侍</sup>う<sup>尚侍</sup>ん<sup>尚侍</sup>れ<sup>尚侍</sup>後<sup>尚侍</sup>う<sup>尚侍</sup>も<sup>尚侍</sup>り<sup>尚侍</sup>終<sup>尚侍</sup>て<sup>尚侍</sup>ま<sup>尚侍</sup>り<sup>尚侍</sup>あ<sup>尚侍</sup>  
 一<sup>尚侍</sup>一<sup>尚侍</sup>う<sup>尚侍</sup>た<sup>尚侍</sup>く<sup>尚侍</sup>う<sup>尚侍</sup>ら<sup>尚侍</sup>い<sup>尚侍</sup>は<sup>尚侍</sup>あ<sup>尚侍</sup>ひ<sup>尚侍</sup>さ<sup>尚侍</sup>う<sup>尚侍</sup>あ<sup>尚侍</sup>ひ<sup>尚侍</sup>て<sup>尚侍</sup>ふ<sup>尚侍</sup>か<sup>尚侍</sup>さ<sup>尚侍</sup>  
 名<sup>尚侍</sup>名<sup>尚侍</sup>は<sup>尚侍</sup>そ<sup>尚侍</sup>ら<sup>尚侍</sup>り<sup>尚侍</sup>終<sup>尚侍</sup>り<sup>尚侍</sup>ま<sup>尚侍</sup>ん<sup>尚侍</sup>う<sup>尚侍</sup>一<sup>尚侍</sup>一<sup>尚侍</sup>つ<sup>尚侍</sup>あ<sup>尚侍</sup>は<sup>尚侍</sup>い<sup>尚侍</sup>わ<sup>尚侍</sup>ら<sup>尚侍</sup>う<sup>尚侍</sup>あ<sup>尚侍</sup>さ<sup>尚侍</sup>  
 せ<sup>尚侍</sup>終<sup>尚侍</sup>ら<sup>尚侍</sup>ら<sup>尚侍</sup>に<sup>尚侍</sup>あ<sup>尚侍</sup>つ<sup>尚侍</sup>と<sup>尚侍</sup>あ<sup>尚侍</sup>く<sup>尚侍</sup>あ<sup>尚侍</sup>り<sup>尚侍</sup>あ<sup>尚侍</sup>ひ<sup>尚侍</sup>と<sup>尚侍</sup>う<sup>尚侍</sup>ら<sup>尚侍</sup>う<sup>尚侍</sup>う<sup>尚侍</sup>  
 田<sup>尚侍</sup>田<sup>尚侍</sup>の<sup>尚侍</sup>池<sup>尚侍</sup>は<sup>尚侍</sup>水<sup>尚侍</sup>多<sup>尚侍</sup>う<sup>尚侍</sup>れ<sup>尚侍</sup>日<sup>尚侍</sup>く<sup>尚侍</sup>は<sup>尚侍</sup>終<sup>尚侍</sup>り<sup>尚侍</sup>ゆ<sup>尚侍</sup>く<sup>尚侍</sup>と<sup>尚侍</sup>見<sup>尚侍</sup>け<sup>尚侍</sup>  
 い<sup>尚侍</sup>せ<sup>尚侍</sup>終<sup>尚侍</sup>ら<sup>尚侍</sup>ぬ<sup>尚侍</sup>え<sup>尚侍</sup>れ<sup>尚侍</sup>う<sup>尚侍</sup>ち<sup>尚侍</sup>あ<sup>尚侍</sup>ん<sup>尚侍</sup>ぶ<sup>尚侍</sup>の<sup>尚侍</sup>ち<sup>尚侍</sup>ま<sup>尚侍</sup>の<sup>尚侍</sup>い<sup>尚侍</sup>ら<sup>尚侍</sup>う<sup>尚侍</sup>あ<sup>尚侍</sup>  
 二<sup>尚侍</sup>二<sup>尚侍</sup>目<sup>尚侍</sup>う<sup>尚侍</sup>ら<sup>尚侍</sup>う<sup>尚侍</sup>ら<sup>尚侍</sup>い<sup>尚侍</sup>て<sup>尚侍</sup>一<sup>尚侍</sup>一<sup>尚侍</sup>も<sup>尚侍</sup>書<sup>尚侍</sup>は<sup>尚侍</sup>ぬ<sup>尚侍</sup>も<sup>尚侍</sup>の<sup>尚侍</sup>ち<sup>尚侍</sup>み<sup>尚侍</sup>こ<sup>尚侍</sup>し<sup>尚侍</sup>あ<sup>尚侍</sup>も<sup>尚侍</sup>け<sup>尚侍</sup>  
 二<sup>尚侍</sup>二<sup>尚侍</sup>目<sup>尚侍</sup>う<sup>尚侍</sup>ら<sup>尚侍</sup>う<sup>尚侍</sup>ら<sup>尚侍</sup>い<sup>尚侍</sup>て<sup>尚侍</sup>一<sup>尚侍</sup>一<sup>尚侍</sup>も<sup>尚侍</sup>書<sup>尚侍</sup>は<sup>尚侍</sup>ぬ<sup>尚侍</sup>も<sup>尚侍</sup>の<sup>尚侍</sup>ち<sup>尚侍</sup>み<sup>尚侍</sup>こ<sup>尚侍</sup>し<sup>尚侍</sup>あ<sup>尚侍</sup>も<sup>尚侍</sup>け<sup>尚侍</sup>

ちかんとけふしんじふんちかんとけふしんじふんちかんとけふしんじふん  
 ちかんとけふしんじふんちかんとけふしんじふんちかんとけふしんじふん  
 花鳥のふとせむしねと。まはるはふたむしきし。月  
 新お雪とみく。その時ふたりとちり思ひまをて。  
 いふやむせむしんじふん。ゆへす海のふほそにやうか  
 わう。ちかんとけふしんじふんちかんとけふしんじふん  
 不あふむらひあをれよ。さかす。すしんじふん  
 たよりとも。成しおぼてしひふと。たこれと。ゆく  
 よあ。しんじふん。そ。ゆふと。おはせ。く。と。い。あ。く。え。光。け。く。  
 せりあふしんじふんちかんとけふしんじふんちかんとけふしんじふん  
 ちかんとけふしんじふんちかんとけふしんじふんちかんとけふしんじふん  
 わう。成りて。み。と。も。と。やう。にも。あ。わ。し。ん。じ。ふ。ん  
 ま。く。ち。か。んと。け。ふ。し。ん。じ。ふ。ん。の。か。と。い。ひ。し。ん。じ。ふ。ん。も。我  
 と。い。ふ。あ。り。ね。く。心。あ。ら。ね。もの。と。思。ひ。た。と。を。ら。ん。と  
 な。し。ん。じ。ふ。ん。ちかんとけふしんじふんちかんとけふしんじふん  
 ちかんとけふしんじふんちかんとけふしんじふんちかんとけふしんじふん  
 う。ち。あ。の。う。海。と。も。ぬ。う。と。し。ん。じ。ふ。ん。ちかんとけふしんじふん  
 て。い。と。あ。い。ま。れ。ん。中。あ。と。あ。ら。ね。と。あ。ら。ね。と。あ。ら。ね。と。  
 ま。い。ち。か。んと。け。ふ。し。ん。じ。ふ。ん。ちかんとけふしんじふんちかんとけふしんじふん  
 ちかんとけふしんじふんちかんとけふしんじふんちかんとけふしんじふん  
 ちかんとけふしんじふんちかんとけふしんじふんちかんとけふしんじふん  
 ちかんとけふしんじふんちかんとけふしんじふんちかんとけふしんじふん

音 信

勤 當

疑

語

墮

虚

慰

饗



<sup>宣</sup> <sup>旨</sup> はんしりの。いとけの車よ。このり。少輔乃免のや  
 けり。まひりたもり。あのもろ。大納言。宰相の君あつ。の  
 ほくりに。つきの。くろ。あよ。に。少輔。なれ。ゆつ。ふむ。戸  
 の中ねとのり。うら。と。ま。り。と。人。と。り。う。う。と。あ。ひ。う  
 ー。そ。あ。あ。と。く。ー。と。い。と。か。ち。ち。り。さ。あ。む。む。ら  
 う。う。れ。ひ。ゆ。ー。う。ご。の。り。れ。ゆ。後。の。君。舟。の。口。ゆ。  
 次。よ。な。あ。つ。の。か。り。ー。ご。の。せ。ん。ー。宣。旨。あ。ま。よ。と。ま。て。は  
<sup>次</sup> <sup>茅</sup> あ。ま。り。ー。や。て。し。い。く。ー。い。せ。ら。の。ら。い。ま。そ。の。り。う。う。月。の  
 く。あ。あ。さ。ふ。い。ー。れ。さ。や。と。あ。ひ。ひ。つ。あ。ー。と。さ。ー  
 かり。む。ま。れ。中。ね。の。君。と。う。た。よ。さ。て。な。れ。と。ゆ。く。あ。し  
 あ。ま。た。と。く。ー。と。さ。あ。は。れ。我。う。ー。あ。と。か。ん。り。人  
 ま。う。ー。く。も。思。ひ。あ。ー。た。れ。は。そ。の。の。三。の。く。ら。よ。入。  
 ゆ。ー。た。れ。ハ。に。少。ね。の。君。も。た。り。ー。あ。ま。い。成。う。ぬ。あ。り。た。あ  
 乃。う。さ。と。成。か。て。ひ。ひ。つ。強。健。さ。う。ね。と。も。と。ー  
 ぬ。う。あ。つ。ー。と。さ。さ。う。さ。う。て。ぬ。り。に。火。成。う。さ。入  
 ぬ。身。も。さ。え。よ。多。も。の。く。ー。た。あ。さ。成。ひ。ま。ゆ。後  
 の。宰。ね。た。の。宰。ね。中。ね。公。信。の。み。れ。中。ね。な。し。は。さ。う。く。よ  
 ち。う。さ。つ。さ。あ。ぬ。も。い。と。中。く。かり。あ。ま。い。あ。ま。の  
 と。た。り。た。れ。さ。や。ま。か。や。と。あ。り。た。人。ー。さ。い。さ。さ。ね  
 つ。か。り。ー。い。や。あ。朝。た。よ。ゆ。り。ゆ。ん。あ。ま。い。あ。ま  
 う。く。身。も。さ。く。み。て。ゆ。あ。い。あ。く。ひ。ひ。つ。あ。あ。い  
 ね。だ。ん。の。う。さ。う。り。い。つ。あ。の。あ。く。ら。あ。ら。と。ら。そ。く。も

七葉の肥後守

七〇

ありはうりれり人そつと思ふとつらうらうら  
 せせて、ゆくと大この世乃あり海にすおの君れ  
 ひとあてに妙おしけりて。よけりしとあしとてお  
 けりしと思ゆるなり。ちて思ふらうらとてしとて  
 人のやとらうらとて思ふらうらとて思ふらうら  
 めりしとて思ふらうらとて思ふらうらとて思ふらうら  
 とも思ふらうらとて思ふらうらとて思ふらうら  
 らんとも思ふらうらとて思ふらうらとて思ふらうら  
 ありとも思ふらうらとて思ふらうらとて思ふらうら  
 撰集拾遺抄そのぬとも思ふらうらとて思ふらうら  
 の中納言とて思ふらうらとて思ふらうらとて思ふらうら

是轉俗姓是陽  
 成源氏大納言  
 清隆師孫而子  
 上総公僧也

わてつらうら思ふらうらとて思ふらうらとて思ふらうら  
 くとも思ふらうらとて思ふらうらとて思ふらうら  
 やうのいあしとて思ふらうらとて思ふらうら  
 たり。あんしんとて思ふらうらとて思ふらうら  
 これらとて思ふらうらとて思ふらうらとて思ふらうら  
 のとも思ふらうらとて思ふらうらとて思ふらうら

此書三音言傳言上

廿四



後附

寬弘五年

左大臣藤道一

右大臣藤顯光

內大臣藤公季

左大將

大納言藤道綱

權大納言藤實資

右大將 按察

大納言藤懷忠

權中納言藤齊信

中宮大夫別當右衛門督  
十月十六日正二位

中納言藤公任

皇太后宮大夫 左衛門督

權中納言藤隆家

權中納言源俊賢

治部卿中宮權大夫  
十月從二位

中納言藤時光

彈正尹

權中納言藤忠輔

兵部卿

參議藤有國

勘解由長官  
播磨權守

同 藤行成

左大辨 侍從  
皇太后宮權大夫

同 藤懷平

春宮大夫左兵衛督  
伊豫權守

同 菅輔正

式部大輔  
八十五

同 藤兼隆

右近中將如元

同 藤正光

大藏卿

同 源經房

左近中將近江權守  
左大臣高明公四男

同 藤實成

右近中將侍從

前帥藤伊周

准大臣 給封戶千戶

正三位藤賴通

春宮權大夫

從三位藤兼定

右兵衛督

藏人頭左中辨藤通方

左近中將源頼定

藤頼親

少將

源重尹

藤兼綱

源忠經

藤頼憲

源公信

藤教通

源雅通

源濟政

藤道雅

紫式部日記傍註下

七傳昭公元年

先王之樂所以節百事也故有五節科類註五聲之節又本朝禮樂詳見後補

中少少日一

みせらへサ日一侍役宰相行成卿の事

つるも右宰相中將のみまらに影の事

くははてしと一よりひまふれものりたて葉

梅乃枝桃とく最と見ましつるささえわれの事

つるもひかりをてとふ立ひまもたかくサワ

つるもひかりをてとふ立ひまもたかくサワ

つるもひかりをてとふ立ひまもたかくサワ

つるもひかりをてとふ立ひまもたかくサワ

つるもひかりをてとふ立ひまもたかくサワ

つるもひかりをてとふ立ひまもたかくサワ

紫式部日記傍註下



乃心試かちううはりまらせぬくはらしておぼしめさる

才路散米はうらまはれ一のうらはねよ異はらうらま

わう憂をれはまら一やまらひわらまら一ちまらひま

まらひ炭櫃とありひておぼらにふひやう急こ共アハと

尺ゆ炭櫃らとあしりふやふ殿あり一まらしてあまら

かう素貞ぞまらしてはねらる。いこまらにもいとあまら

まらほてらまらむらむらまらうのわりなりまらまら素貞まら

いふくあり藤原近光一とん藤原近光とん藤原近光にたらんれう藤原近光のぞくら

わらうらて寐らぬら夏のやうにまらむらむら寐おいら

わらうらて額おぼら一らうらむらまらてありけらひまら

まらまら童御覽并卯目ナリらまらまらまらまら童御覽并卯目ナリまら

かまら童御覽并卯目ナリからぬら一まらまらまらまら童御覽并卯目ナリまら

まらまら童御覽并卯目ナリらまらまらまらまら童御覽并卯目ナリまら

あまら童御覽并卯目ナリまらまらまらまら童御覽并卯目ナリまら

わらまら童御覽并卯目ナリらまらまらまらまら童御覽并卯目ナリまら

まらまら童御覽并卯目ナリらまらまらまらまら童御覽并卯目ナリまら

まらまら童御覽并卯目ナリらまらまらまらまら童御覽并卯目ナリまら

まらまら童御覽并卯目ナリらまらまらまらまら童御覽并卯目ナリまら

紫式部日記傍注下

三

海つめれ。すくくもゆりなす。ひろ中よりあかきと  
 うくくくくくをひ。そうれんかられまうわ  
 ころふ。あてもあつめ。さ身乃かともゆらあといひあう。  
 人よおとくくくくあそふくくくも。ふおくくくくく  
 あいさくくくくくくくくくく。丹波  
 けくくくくくくくくくく。行  
 けくくくくくくくくくく。下仕  
 けくく。友宰相のくくくく。あつろとくく。あつろの  
 くくく。あう。あひまとけくくくく。ねさびあり。  
 けくくくくくくく。半くくくくく。宰相の  
 兼隆卿  
 中物わくくくくくく。見ともくくくく。くくあひ  
 柏  
 あと免くくく。うくくくく。がくくくく。なる中ふ。

とくくくくく。えひくくく。くくく。中くくくく  
 へあつめくくく。わのいらあひはあくと下仕のくくく  
 くるくく。あふくくく。六位の人とくくく。ふ  
 へあつめくくく。くくく。女くくく。わ  
 くくく。わくくく。くくく。あつろのくくく。あつろ  
 あつろ。又くくく。あつろ。あつろ。あつろ。あつろ  
 けくく。あつろ。あつろ。あつろ。あつろ。あつろ。あつろ  
 見くくく。あつろ。あつろ。あつろ。あつろ。あつろ。あつろ  
 後のおもあつろ。あつろ。あつろ。あつろ。あつろ。あつろ  
 あつろ。あつろ。あつろ。あつろ。あつろ。あつろ  
 小あつろ。あつろ。あつろ。あつろ。あつろ。あつろ





しつゝさしひしつゝつゝめくうられおほいよのし随所  
このよのいこすしんちとせてぬまらる。つらとこ  
のうふあらしひれらうしんちとせたりかこことし  
てらこのう白く糸のかういりてつひの君は<sup>髪搔</sup>せんし  
ほくさきしんちとせたり。まればに<sup>葺手</sup>あしてにうら  
らう。日けのぬまあり。ま<sup>文字</sup>あひあつてあや  
しめらひてぬまらふとせし<sup>大臣</sup>かのおくはまらと  
いえはま<sup>計無</sup>かうこくし<sup>戯</sup>あし<sup>入名</sup>うかりたりと  
さうゆ。ま<sup>計無</sup>かうこくし<sup>戯</sup>あし<sup>入名</sup>うかりたりと  
しうこそま<sup>計無</sup>かうこくし<sup>戯</sup>あし<sup>入名</sup>うかりたりと  
まればかうして。ま<sup>計無</sup>かうこくし<sup>戯</sup>あし<sup>入名</sup>うかりたりと

あしひの十九日  
は括くまの  
あつは寛弘  
三年十二月  
元日あつて

今ぬはまひんよめと見も。うらゆりくそかこら  
ゆのいこあは<sup>御社</sup>らうらうの海まそつりまわ  
は<sup>御神樂</sup>うらうらうとせまらうらうらう<sup>入名</sup>うかりたりと  
い<sup>入名</sup>うかりたりとせまらうらうらう<sup>去年</sup>うかりたりと  
まひらうらうらうらうらうらう<sup>注上</sup>うかりたりと  
ま<sup>注上</sup>うかりたりとせまらうらうらう<sup>去年</sup>うかりたりと  
ま<sup>注上</sup>うかりたりとせまらうらうらう<sup>去年</sup>うかりたりと  
ま<sup>注上</sup>うかりたりとせまらうらうらう<sup>去年</sup>うかりたりと  
ま<sup>注上</sup>うかりたりとせまらうらうらう<sup>去年</sup>うかりたりと  
ま<sup>注上</sup>うかりたりとせまらうらうらう<sup>去年</sup>うかりたりと  
ま<sup>注上</sup>うかりたりとせまらうらうらう<sup>去年</sup>うかりたりと  
ま<sup>注上</sup>うかりたりとせまらうらうらう<sup>去年</sup>うかりたりと

紫式部日記



ハ。程いとまきんひ異なりきり。あつとまあひらまはし祓か  
まりの成。あつとたれ履の志きうあつとあめ  
くひひわさうとさうて

州追 難注正 疾てり世まきめく因のよとにらうら祓すまきいさ成

とまひらうとさうて。こひりれあつとあひらとさうとさう

ぬれい菌黒とくあめつせふとさうね。はくろひひますうて。うら

さげあつとに。舟の内位さそめのかうらうしてゆへに

たくとれくう人のあまき。れあもあめてあて。うらぬまの

かえね。ゆひり捨 敷とさうはくくともあひらに。おまら

くふい馬くくのかうらうとさうとさうとさうとさうとさうと

人のあれ注 騒くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

ひくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

弘仁内裏式日  
中務省率待從  
内舍人大舍人等  
各持桃弓葦矢  
藤陽寮藤陽師  
齊即執茶具方  
相一人若假面  
貴金四目其衣  
朱色裳右執戈  
左執楯依子九  
人同若紺布衣  
朱林額共入殿  
庭列立云云

御膳宿  
御膳宿  
御膳宿

式部がとけありそまひりて。さうくのうら<sup>差</sup>らあり  
 と色。すまひとりそまひりてありく。そのあは  
 えはむひなるもあり。うらうらひあしらう。こ  
 ころにうらうらうそまひりて。お<sup>納</sup>あぬあつらう  
 いて。さへ。あの人よあはほいらはうそまひり  
 せむ。うらうそまひりてあり。裸  
 おう<sup>寛弘六年</sup>ゆらうそまひりて。お<sup>坎注上</sup>うらうそまひりて。お<sup>戴</sup>うらうそまひりて。  
 志の人も正月一日入目なり多し。さうあつらう。お<sup>餅</sup>うらうそまひりて。三日うらうそまひりて。お<sup>蒲葡萄</sup>うらうそまひりて。お<sup>紅</sup>うらうそまひりて。お<sup>福</sup>うらうそまひりて。  
 えひらめ。うらうそまひりて。お<sup>六</sup>うらうそまひりて。お<sup>佩</sup>うらうそまひりて。お<sup>鈕</sup>うらうそまひりて。お<sup>注上</sup>うらうそまひりて。お<sup>日</sup>うらうそまひりて。お<sup>薄</sup>うらうそまひりて。お<sup>固</sup>うらうそまひりて。お<sup>文</sup>うらうそまひりて。お<sup>櫛</sup>うらうそまひりて。お<sup>檀</sup>うらうそまひりて。お<sup>九</sup>うらうそまひりて。お<sup>九</sup>うらうそまひりて。

寛弘六年  
正月一日

薄色トハ紫ノ  
トスキラ云

ありあつらうそまひりて。お<sup>六</sup>うらうそまひりて。お<sup>佩</sup>うらうそまひりて。お<sup>鈕</sup>うらうそまひりて。お<sup>注上</sup>うらうそまひりて。お<sup>日</sup>うらうそまひりて。お<sup>薄</sup>うらうそまひりて。お<sup>固</sup>うらうそまひりて。お<sup>文</sup>うらうそまひりて。お<sup>櫛</sup>うらうそまひりて。お<sup>檀</sup>うらうそまひりて。お<sup>九</sup>うらうそまひりて。お<sup>九</sup>うらうそまひりて。







人乃。皆。い。わ。き。さ。し。ひ。な。く。ふ。せ。い。こ。ん。た。め。の。お。か。り。く。  
 い。と。あ。り。な。く。つ。は。ら。い。の。か。い。は。い。と。お。か。し。き。り。か。い。の。  
 こ。と。め。の。ゆ。き。ま。い。は。い。か。い。の。ま。い。り。の。あ。ら。う。て。あ。ら。う。て。  
 お。ほ。う。き。な。り。い。い。つ。あ。い。ま。ま。い。い。つ。ま。い。ら。う。や。う。い。あ。ら。う。て。  
 と。う。も。ま。す。に。か。さ。す。い。か。お。ま。い。す。い。つ。あ。ら。う。て。ゆ。  
 め。り。あ。い。ま。い。ひ。ん。く。ま。い。と。あ。う。く。ゆ。り。い。ひ。い。ま。  
 一。死。ま。う。と。い。ま。い。は。い。つ。ら。に。ま。い。ま。す。や。う。ま。て。し。し。そ。  
 ぞ。と。お。し。て。ゆ。あ。し。ま。う。い。ひ。く。さ。く。せ。う。か。さ。う。ゆ。り。  
 一。し。そ。れ。い。ま。う。い。ま。い。つ。ま。い。つ。ら。に。あ。い。ま。い。ま。い。つ。  
 ね。し。つ。こ。ん。は。い。ま。い。ま。い。つ。ま。い。ま。い。つ。ま。い。ま。い。つ。  
 一。か。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。  
 一。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。  
 一。か。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。

楊子白膠柱  
 朝...

一。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。  
 一。か。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。  
 一。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。  
 一。か。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。  
 一。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。  
 一。か。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。  
 一。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。  
 一。か。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。  
 一。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。  
 一。か。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。ま。い。つ。

本草綱目  
 楊子白膠柱



れとも女むすめをむすむ...  
 せうとてむすめの...  
 うたれむす...  
 うせぬゆゑを...  
 あやせたり...  
 皇<sup>皇后</sup>宮の人...  
 中宮の...  
 らふ...  
 り...  
 り...  
 り...  
 り...  
 り...

七條次郎日記傍註

十五





あつてはひひとてそあわ...  
 ありぬとよとけり。あねは人の心ありし...  
 りあはゆめり。かゝるかあ...  
 けんか...  
 け...  
 あ...  
 本信卿  
 愛  
 又あひてもあ...  
 紫のき...  
 のよ...

あつてはひひとてそあわ...  
 ありぬとよとけり。あねは人の心ありし...  
 りあはゆめり。かゝるかあ...  
 けんか...  
 け...  
 あ...  
 本信卿  
 愛  
 又あひてもあ...  
 紫のき...  
 のよ...

このまゝ見たりれとうめれたりおとらふとあともう  
 にゆる。女院ワりの人ともまはれとめふふたり。  
 ありとて見る方乃こところあり。ほろの人いめもえあし。  
 もの成もさうさめーとありひあつらんう又さう好さ。  
 すまき人ともどくくさのやま。つら成りらひんこは  
 かさ<sup>難</sup>いさ成さ<sup>賢</sup>いありて。まはれううに人とかさ  
 小の<sup>誹</sup>成そ<sup>諺</sup>れ秘よふ乃さのこしそ見あうら  
 めさ<sup>賢</sup>と四らんきさ勢まがうゆふさうさうか人乃  
 かくーとれづりき成ぬもみさく見さうに見せてさう  
 へーゆあ<sup>如</sup>うの秘さう<sup>和泉式部</sup>しそ<sup>部</sup>つとまよとゆ人そ  
 ねり<sup>如</sup>あうかさう<sup>如</sup>しきさ。まはと<sup>如</sup>つ<sup>如</sup>い<sup>如</sup>さ<sup>如</sup>う<sup>如</sup>め<sup>如</sup>か<sup>如</sup>

こそあれ。うらさけくさくさう<sup>如</sup>わ<sup>如</sup>れたるにうのうさ<sup>如</sup>  
 さえあう人<sup>オ</sup>もあいにしとれまひも思<sup>如</sup>ゆあり。うさ<sup>如</sup>い<sup>如</sup>  
 ね<sup>如</sup>さ<sup>如</sup>し<sup>如</sup>の<sup>如</sup>あ<sup>如</sup>え<sup>如</sup>う<sup>如</sup>さ<sup>如</sup>う<sup>如</sup>り<sup>如</sup>は<sup>如</sup>こ<sup>如</sup>の<sup>如</sup>す<sup>如</sup>ま<sup>如</sup>は<sup>如</sup>海  
 よこそゆ<sup>如</sup>あ<sup>如</sup>れ<sup>如</sup>ら<sup>如</sup>に<sup>如</sup>ま<sup>如</sup>さ<sup>如</sup>せ<sup>如</sup>う<sup>如</sup>さ<sup>如</sup>う<sup>如</sup>の<sup>如</sup>あ<sup>如</sup>う<sup>如</sup>を<sup>如</sup>れ  
 う<sup>如</sup>さ<sup>如</sup>い<sup>如</sup>婦<sup>如</sup>の<sup>如</sup>あ<sup>如</sup>ふ<sup>如</sup>さ<sup>如</sup>ま<sup>如</sup>ら<sup>如</sup>よ<sup>如</sup>さ<sup>如</sup>ゆ<sup>如</sup>り<sup>如</sup>そ<sup>如</sup>れ<sup>如</sup>ま<sup>如</sup>人<sup>如</sup>の  
 よ<sup>如</sup>こ<sup>如</sup>さ<sup>如</sup>ん<sup>如</sup>す<sup>如</sup>あ<sup>如</sup>し<sup>如</sup>う<sup>如</sup>う<sup>如</sup>り<sup>如</sup>あ<sup>如</sup>さ<sup>如</sup>ん<sup>如</sup>に<sup>如</sup>い<sup>如</sup>て<sup>如</sup>あ<sup>如</sup>い<sup>如</sup>ま<sup>如</sup>て  
 う<sup>如</sup>ら<sup>如</sup>い<sup>如</sup>え<sup>如</sup>う<sup>如</sup>。口<sup>如</sup>よ<sup>如</sup>い<sup>如</sup>う<sup>如</sup>の<sup>如</sup>よ<sup>如</sup>う<sup>如</sup>あ<sup>如</sup>り<sup>如</sup>と<sup>如</sup>あ<sup>如</sup>さ<sup>如</sup>い<sup>如</sup>さ<sup>如</sup>  
 す<sup>如</sup>ら<sup>如</sup>に<sup>如</sup>ゆ<sup>如</sup>う<sup>如</sup>。ま<sup>如</sup>つ<sup>如</sup>ま<sup>如</sup>れ<sup>如</sup>う<sup>如</sup>さ<sup>如</sup>あ<sup>如</sup>さ<sup>如</sup>い<sup>如</sup>ゆ<sup>如</sup>さ<sup>如</sup>。  
 きん<sup>如</sup>ぞ<sup>如</sup>れ<sup>如</sup>この<sup>如</sup>わ<sup>如</sup>乃<sup>如</sup>う<sup>如</sup>成<sup>如</sup>ん<sup>如</sup>。ま<sup>如</sup>殿<sup>如</sup>の<sup>如</sup>さ<sup>如</sup>う<sup>如</sup>り<sup>如</sup>。  
 ゆ<sup>如</sup>ひ<sup>如</sup>う<sup>如</sup>東<sup>如</sup>門<sup>如</sup>と<sup>如</sup>う<sup>如</sup>ひ<sup>如</sup>ゆ<sup>如</sup>り<sup>如</sup>。ま<sup>如</sup>あ<sup>如</sup>や<sup>如</sup>む<sup>如</sup>と<sup>如</sup>あ<sup>如</sup>は<sup>如</sup>い<sup>如</sup>あ<sup>如</sup>う<sup>如</sup>  
 ね<sup>如</sup>い<sup>如</sup>ゆ<sup>如</sup>い<sup>如</sup>も<sup>如</sup>ゆ<sup>如</sup>く<sup>如</sup>く<sup>如</sup>す<sup>如</sup>ま<sup>如</sup>と<sup>如</sup>ま<sup>如</sup>あ<sup>如</sup>り<sup>如</sup>の<sup>如</sup>い<sup>如</sup>た

高陞朝臣業遠

江侍

紫雲言傳

七

つきてよみらるゝねと。すゝるかうらひにぞねこあり  
 ねのいほまほしきそらうらひにぞねこあり箱  
 ねにうらひあはれなりねまうらひにうらひにぞねこあり  
 ねにうらひあはれなりねまうらひにうらひにぞねこあり  
 ねにうらひあはれなりねまうらひにうらひにぞねこあり  
 ねにうらひあはれなりねまうらひにうらひにぞねこあり  
 ねにうらひあはれなりねまうらひにうらひにぞねこあり  
 ねにうらひあはれなりねまうらひにうらひにぞねこあり  
 ねにうらひあはれなりねまうらひにうらひにぞねこあり  
 ねにうらひあはれなりねまうらひにうらひにぞねこあり  
 ねにうらひあはれなりねまうらひにうらひにぞねこあり

よのつらさきくはらわらふあはれなりねこあり  
 うのあはれなりねこありねまうらひにうらひにぞねこあり  
 かこくにつきて。一ねのありひいてとらふことねくて  
 ときーねわらふ人のいふおれとねまのともあはれそら  
 う先おのふさだはねとねまうらひにうらひにぞねこあり  
 ねにうらひあはれなりねまうらひにうらひにぞねこあり  
 ねにうらひあはれなりねまうらひにうらひにぞねこあり  
 ねにうらひあはれなりねまうらひにうらひにぞねこあり  
 ねにうらひあはれなりねまうらひにうらひにぞねこあり  
 ねにうらひあはれなりねまうらひにうらひにぞねこあり  
 ねにうらひあはれなりねまうらひにうらひにぞねこあり  
 ねにうらひあはれなりねまうらひにうらひにぞねこあり  
 ねにうらひあはれなりねまうらひにうらひにぞねこあり

紫雲山言傳

十六

夕たししううのひらりととうとああしていああけこ  
 くららととすすけけららの人ややららんんととのひららんんととのひららんんとと  
 していままももああららししもも持持ままれれららいいわわららしし  
曹司くららししすすけけららのひららんんととのひららんんととのひららんんとと  
和琴調くららししすすけけららのひららんんととのひららんんととのひららんんとと  
倒くららししすすけけららのひららんんととのひららんんととのひららんんとと  
厨子ららししすすけけららのひららんんととのひららんんととのひららんんとと  
琵琶左ららししすすけけららのひららんんととのひららんんととのひららんんとと  
厨子ららししすすけけららのひららんんととのひららんんととのひららんんとと  
積ららししすすけけららのひららんんととのひららんんととのひららんんとと  
景ららししすすけけららのひららんんととのひららんんととのひららんんとと  
式部大宣考一ららししすすけけららのひららんんととのひららんんととのひららんんとと

かりにいいぬぬででああららししるる人人ももああららししるる人人ももああららししるる人人もも  
 せあららししるる人人ももああららししるる人人ももああららししるる人人ももああららししるる人人もも  
式部女ナリせあららししるる人人ももああららししるる人人ももああららししるる人人ももああららししるる人人もも  
何条せあららししるる人人ももああららししるる人人ももああららししるる人人ももああららししるる人人もも  
制せあららししるる人人ももああららししるる人人ももああららししるる人人ももああららししるる人人もも  
後せあららししるる人人ももああららししるる人人ももああららししるる人人ももああららししるる人人もも  
經せあららししるる人人ももああららししるる人人ももああららししるる人人ももああららししるる人人もも  
輕せあららししるる人人ももああららししるる人人ももああららししるる人人ももああららししるる人人もも  
糺せあららししるる人人ももああららししるる人人ももああららししるる人人ももああららししるる人人もも

紫式部日記傍註

十一









ゆるとまのたまもよて文集の取くよもせはらして  
 さらけまよしとろくめをまかりきふおほひのすい  
 へいとおのひて人のまらぬあひつらしくいおとく  
 乃夏<sup>く</sup>あより。樂<sup>樂</sup>信<sup>信</sup>とりぬ。二くりんとそ。あまけま  
 かうと<sup>堪</sup>。つあ<sup>堪</sup>。ささくともか<sup>悪</sup>。けりまも  
 あひをほ<sup>く</sup>。殿<sup>殿</sup>も。らも。き<sup>き</sup>。れ<sup>れ</sup>。あ<sup>あ</sup>。せ<sup>せ</sup>ほ<sup>ほ</sup>く。  
 けあ<sup>あ</sup>と<sup>と</sup>も<sup>も</sup>と<sup>と</sup>め<sup>め</sup>て<sup>て</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>せ<sup>せ</sup>ほ<sup>ほ</sup>て<sup>て</sup>そ<sup>そ</sup>あ<sup>あ</sup>い<sup>い</sup>も<sup>も</sup>せ<sup>せ</sup>ほ<sup>ほ</sup>く<sup>く</sup>は<sup>は</sup>ま<sup>ま</sup>  
 か<sup>か</sup>う<sup>う</sup>も<sup>も</sup>せ<sup>せ</sup>ほ<sup>ほ</sup>く<sup>く</sup>す<sup>す</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>。将<sup>將</sup>彼<sup>彼</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>の<sup>の</sup>内<sup>内</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>い<sup>い</sup>え<sup>え</sup>う<sup>う</sup>  
 さら<sup>ら</sup>。あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>き<sup>き</sup>。と<sup>と</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>く<sup>く</sup>ん<sup>ん</sup>物<sup>物</sup>と。よ<sup>よ</sup>て<sup>て</sup>世<sup>世</sup>中<sup>中</sup>  
 と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>き<sup>き</sup>く<sup>く</sup>う<sup>う</sup>た<sup>た</sup>め<sup>め</sup>に<sup>に</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>ら<sup>ら</sup>き<sup>き</sup>あ<sup>あ</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>ら<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>  
 し<sup>し</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>く<sup>く</sup>。人<sup>人</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>き<sup>き</sup>も<sup>も</sup>わ<sup>わ</sup>け<sup>け</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>も<sup>も</sup>。そ<sup>そ</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>佛</sup>は

しゆ<sup>經</sup>なく<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>く<sup>く</sup>世<sup>世</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>り<sup>り</sup>。こ<sup>こ</sup>ら<sup>ら</sup>に<sup>に</sup>  
 する<sup>す</sup>て<sup>て</sup>つ<sup>つ</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>り<sup>り</sup>を<sup>を</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>ひ<sup>ひ</sup>かり<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>て<sup>て</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>れ<sup>れ</sup>い<sup>い</sup>。ひ<sup>ひ</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>は  
 ぬ<sup>ぬ</sup>ん<sup>ん</sup>ふ<sup>ふ</sup>き<sup>き</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>も<sup>も</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>く<sup>く</sup>。ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>に<sup>に</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>  
 こ<sup>こ</sup>も<sup>も</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>か<sup>か</sup>の<sup>の</sup>め<sup>め</sup>た<sup>た</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>な<sup>な</sup>ん<sup>ん</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>ら<sup>ら</sup>  
 かる<sup>ら</sup>。ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>ら<sup>ら</sup>あり<sup>り</sup>。こ<sup>こ</sup>ら<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>も<sup>も</sup>。つ<sup>つ</sup>。れ<sup>れ</sup>は<sup>は</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>  
 あり<sup>り</sup>も<sup>も</sup>て<sup>て</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>ら<sup>ら</sup>。ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>ら<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>こ<sup>こ</sup>ら<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>も<sup>も</sup>ら<sup>ら</sup>  
 こ<sup>こ</sup>も<sup>も</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>  
 ん<sup>真似</sup>あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>人<sup>人</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>  
 こ<sup>こ</sup>も<sup>も</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>  
 ー<sup>罪</sup>も<sup>も</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>  
 ゆ<sup>ゆ</sup>ら<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>

紫式部日記傍註

九三

つげゆめむと。たもあ。さむせまらつと身のうの  
うけよても。このいと因えさそゆほ。うほそし。  
さし。ぬくひら。こえふすとも。か。あ。こ。こ。や。  
ゆる。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
成。成。成。成。成。成。成。成。成。成。成。成。成。成。成。成。成。成。  
う。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。  
や。や。や。や。や。や。や。や。や。や。や。や。や。や。や。や。や。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。  
に。に。に。に。に。に。に。に。に。に。に。に。に。に。に。に。に。に。

或備在師、云  
管僕印陀羅  
尼經曰況有衆  
人或作塔形  
或罪障悉滅  
所尺如意

木とそゆんぞれはあふらん。さむり。さむり。さむり。さむり。  
う。かくせの人のあ。う。成。成。成。成。成。成。成。成。成。成。成。成。成。成。成。成。成。成。  
い。身とおひすてぬのさ。あ。う。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。  
あ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。  
このう。人。人。人。人。人。人。人。人。人。人。人。人。人。人。人。人。人。人。  
と。  
う。  
あ。  
う。  
に。

兼次部 尼音註

あり。おとろくそ。後上人あよりて。こかこつ。こつとて。  
御堂  
のち。このたうのさし。しつ。おむさふと。あけさう  
池  
さけしん。い。ま。ふ。は。き。り。た。り。〜。こ。橋。れ。こ。う。ん。成

とて。まのたまは。おびたり。後。白。地。あ。は。つ。つ。勢  
あ。う。は。と。宰相の君。あ。と。物。〜。て。た。ま。あ。ま。ま。  
う。り。さ。け。ぬ。〜。い。〜。内。外。た。〜。月。お。か  
ろ。に。〜。つ。や。ら。な。君。連。の。や。う。〜。今。様。歌。注。上。

少。孫。〜。の。う。り。お。月。さ。ら。成。日。〜。た。り。〜。つ。ゆ。り。  
藤原正光卿  
大。く。〜。の。あ。ま。〜。き。〜。く。〜。す。ふ。〜。う。ら。そ。ん。も  
つ。ま。〜。〜。あ。や。あ。の。ひ。や。〜。あ。て。わ。〜。〜。ら。て。あ。か。〜。  
う。見。お。ま。い。み。と。は。〜。ら。〜。〜。も。〜。こ。そ。ふ。〜。〜。お。の。の。〜。

白く集巻  
第二日海漫  
漫叙福文成  
多証誕上元  
本山正光持

あ。や。た。い。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
大。ま。徐。福。文。成。誕。誕。た。は。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。海。も。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。心。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
保。良。の。お。徳。た。ま。〜。あ。る。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。

〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。

紫式部日記傍註

めさぬしうささるゆ。さるゆは祓ふ事。成さく人あり

ときげとたうあり。たさるゆをせして。つとめて

水雞  
川をすうくおあすの事あり。そまたのさるゆはたさるゆ

を

判あしきさうた。くさるゆあけて。さるゆしう海

寛弘六年十月四日一条院燒亡十九日行幸左大臣枕把。真十一月廿五日第三皇子誕生十二月廿六日中宮入内  
六と正月三日までまうたら。此のつとさりら。わよ目と

まうのわくせは。ゆとをにふか上らうもまの。た清つ乃

う。懐  
二間  
餅  
戴  
結。さゆのひし。乃とふひひく。うのつとる勢さく

ま。さあまなり。たりのわく勢さく。うた。見のなり。

皇太后宮 東三條院  
大まののわくせは。ゆと。このは。つとら。あまひ宰相

の君。まの色の。まわひあし。さふく。あし。さるゆ

命 婦  
つとら。やうふは。うまつ。かま。あけ。さう。つとら。あま。さ

ゆ。あひひ。あし。さふ。み。ゆ。さ。り。あ。やく。さ。り。乃

女官。ま。あ。や。乃。さ。さ。さ。う。さ。ら。さ。い。ら。さ。お。さ。り。

音 藥 注上  
たう。やく。ま。ま。ゆ。さ。ま。い。の。う。さ。も。なり。二日。まの。大。餐

は。あ。り。く。陳。内。容。あ。ん。し。た。り。て。さ。り。さ。ら。ひ。て。例

乃。し。さ。ら。り。かん。う。ら。め。ハ。傳。大。納。言。右。大。將。中。ま。大。夫

公任卿 隆家卿 行成卿 頼通卿 有 國卿  
正光卿 實成卿 源 頼定卿  
宰相。大。益。つ。乃。さ。清。侍。後。の。中。納。言。乃。清。つ。替。わ。り。く。あ

俊賢卿 注前 源 経房卿 長 押  
源中納言。乃。さ。清。替。乃。右。宰相。中。わ。あ。ま。の。ま。に。

源上人の府乃上につとら。り。さ。ら。ま。い。て。死。い。て。ま。り。ゆ

例のものさ  
あひひ生気  
れ色あり生  
氣北のあり内ハ  
綠色あり

膏藥十瘡  
一カ病膏也  
見延喜式

例の事せいとせ  
とハ祝詞曰命  
幸カタカレノ  
言ヲ云

て注上是の御事いふとせ  
とハ祝詞曰命  
幸カタカレノ  
言ヲ云

てまの御事いふとせ  
とハ祝詞曰命  
幸カタカレノ  
言ヲ云

てまの御事いふとせ  
とハ祝詞曰命  
幸カタカレノ  
言ヲ云

てまの御事いふとせ  
とハ祝詞曰命  
幸カタカレノ  
言ヲ云

てまの御事いふとせ  
とハ祝詞曰命  
幸カタカレノ  
言ヲ云

拾遺集春  
子日とて背小松のありと  
千代のありと  
何とひかま

てまの御事いふとせ  
とハ祝詞曰命  
幸カタカレノ  
言ヲ云

てまの御事いふとせ  
とハ祝詞曰命  
幸カタカレノ  
言ヲ云

てまの御事いふとせ  
とハ祝詞曰命  
幸カタカレノ  
言ヲ云

てまの御事いふとせ  
とハ祝詞曰命  
幸カタカレノ  
言ヲ云

てまの御事いふとせ  
とハ祝詞曰命  
幸カタカレノ  
言ヲ云

の<sup>五</sup>日<sup>十</sup>。正月十六日。と噴<sup>明</sup>するよこサの思あけと

て。ごうたなをくあり。さうしほり。さうしほり。まのあめ

およゆたり。あさりのつわのひとひはあもせて。こま

さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり

あそそそ。あそそ。あそそ。あそそ。あそそ。あそそ。あそそ

さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり

さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり

さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり

さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり

さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり

直衣ナリ。小口。紅ノ小口。襷ナリ

さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり

さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり

さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり

さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり

さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり

さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり

さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり

さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり

さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり

さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり。さうしほり



まのりすしより。たまの物――うらさ海びひつくえんう  
 形。すのこに小むらに。あや候なにててんくら先。た  
内大臣殿公季公  
 ちうられおほいとの。まゑ女大夫。宮内大御女。それうと  
 い。えんゆらうは。いあそひあり。殿上人のあのをい乃  
廊  
 うのふあうううらうにうめぬ。下ハてまわく  
 うけまのあそん。こまうああそん。ゆらうらうらうらうらう  
 あらううの人く。うらうは宮内大御女。らうらうらうらうらうらう  
琵琶 箏  
 ひと。こはちの宰相。中将笙うらうのあえとも。せうらうらうの  
母名尊  
 一と。あかあうらうと。つとふらうらう田。このあがうらうらう  
鳥 破急  
 うくの物ハ。うらうのとらうらうとあそよとのまはもてうらう  
椰子  
 かとをゆく。手にらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう  
伊勢

海。右のれと日らん。いとれりらうらうらうらうらうらうらう  
大和琴  
 られゆふ。めりうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう  
雅禮  
 して。うらう人のあえひえゆらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう  
寒  
 うのまゑとそを侍

三十一



後附

寬弘七年十一月廿八日遷新造一条院 中宮同行啓

寬弘七年

左大臣藤道一 | 右大臣藤顯光 | 內大臣藤公季 左少將

大納言藤道綱 傳 | 藤實資 右大將 按察使 | 權大納言藤齊信 中言八

同 藤公任 皇太后宮大夫

權中納言源俊賢 治部卿中宮權大夫 十二月十七日正二位 | 中納言藤隆家

權中納言藤行成 皇太后宮權大夫 侍從 | 同 藤頼通 左衛門督 春宮權大夫

中納言藤時光 彈正尹 | 權中納言藤忠輔 兵部卿

參議藤有國 勳解由長官 三月十六日修理大夫 | 同 藤懷平 右衛門督使別當 春宮大夫

同 藤兼隆 右中將 | 同 藤正光 大藏卿

同 源經房 左中將 | 同 藤實成 左兵衛督

同 源頼定

左中將藤公信 藏人從四位上 內藏頭 | 藤教通 從四位上 十一月廿八日從三位 甲料如元

少將藤濟政 十一月廿五日 右中將 | 藤兼綱 從四位下

藤忠經 藏人正五位下  
正月七日從四位下

藤定賴 二月十六日左右  
十二月七日正四位下

源朝任 藏人從五位下  
十一月十五日轉任元右

右中將藤兼隆

藤賴宗 十一月廿八日  
正四位下

源濟政 十一月廿五日任

少將源雅通 二月廿日兼  
木工頭

藤道雅 從四位下

藤好親 正月七日從五位上  
左兵衛佐

藤定賴 從四位下

源朝任 二月十六日任元少納言  
任右

藤經親 二月廿五日任  
元左衛門佐

蓋聞斯書紫式部之所記也式部寬弘三年之臘始官仕中宮後號上東門院是也若其博覽俊才則固世所徧知也其官仕之間見聞所及進退所經聊注錄以成一書其雅趣藻詞實與源語相為伯仲然此書本非日次之體而呼之日記者未審姑且依舊題不輒改之其間難解者畧標記傍注以便看讀門人谷村光義

更撮取言五節舞姬之事者以附後而  
與本書相發遂附之削闕以與于門下  
之士云爾

享保己酉年黃鐘中澣壺井安鶴翁

後補

○大嘗會本朝月令五節舞者淨御原天皇之所  
制也相傳曰天皇御吉野宮日暮彈琴有興俄  
爾之間前岫之下雲氣忽起疑如高唐神女鬋  
髻應曲而舞獨入天瞻他人无見舉袖五變故  
謂之五節其歌曰乎度綿度茂邑度綿左備須  
茂可良多乎多茂度邇麻岐底乎度綿左備  
須茂光義按更  
有本據在

○續日本紀聖武天皇天平十四年春正月丁未  
朔壬戌天皇御大安殿宴群臣酒酣奏五節田

舞訖更令少年童女踏歌○同十五年五月癸卯宴群臣於内裏皇太子親舞五節云類聚國史嵯峨天皇弘仁五年十一月壬辰宴侍臣奏五節儂賜祿有差

○本朝文粹善相公清行十二箇條五節舞妓臣伏見朝家五節舞妓者太嘗會時五人即皆預叙位其後年年新嘗會時四人無預叙位之例由是至于太嘗會之時權貴之家競進其女以死此妓尋常之年人皆辭道可闕神事爰有新制令諸公卿及女御輪轉進之伏案故實弘仁承和

二代尤好内寵故遍令諸家擇進此妓即以爲選納之便也諸家僥倖天恩不顧糜費盡財破產競以貢進略

○雲圖抄裏書五節次第廿日舞姬等參入裝束畢後預藏人觸其由於貫首大歌參畢後可申歟藏人頭奏聞或令藏人奏次御出頭以下前行乘脂入大師局殿下所便入給也公卿排徊馬道邊隨所次舞姬等參入必無次第茵几帳各以具之薰爐持隨髮上之時撤件預藏人每度搔起束帶次大歌發歌几帳云次舞畢退下六位抱之次還御○寅日殿上

淵醉朗詠今樣三獻畢有亂舞次第同夜御前

試預藏人奉仕御裝束尅限大師參上預藏人

次舞姬依次參上或無次藏人頭於南殿西腋

户下禁察陪從關人免入者髮上一人取几童

二人持薰爐自餘不參次殿上户右青瑣門閉

之不開次主殿官人自北廊列立庭中舉炬火

次大歌參上著座次發歌笛次舞畢内侍宣可

返御歌之由次藏人頭問大歌人御物忌之時

誰御所本宮大夫若親○卯日宴飲如昨日童御覽奉仕御裝束后

眠公卿宮司奉仕之次御座定公卿候簀子敷

或賜圓座但不賜故實也次童女參御前雲客副之或召

下仕參藏人副之各一所事畢次第退入夜行

幸中院其儀○辰日節會次第畢及三獻大歌

發歌笛先是舞姬參上候御後下小忌大盤之

後舞姬參上髮上闌於第三間列舞主殿女孀

四人秉燭照舞畢舞姬退下次入御

類聚雜耍抄舞姬裝束○世日赤色唐衣一領

織物褂一領茜染打褂一領織地摺裳一腰茜

染三重袴一腰扇一枚鞋一足○寅日青色唐

衣加襦蘓芳末濃裳一腰茜染打褂一重同三

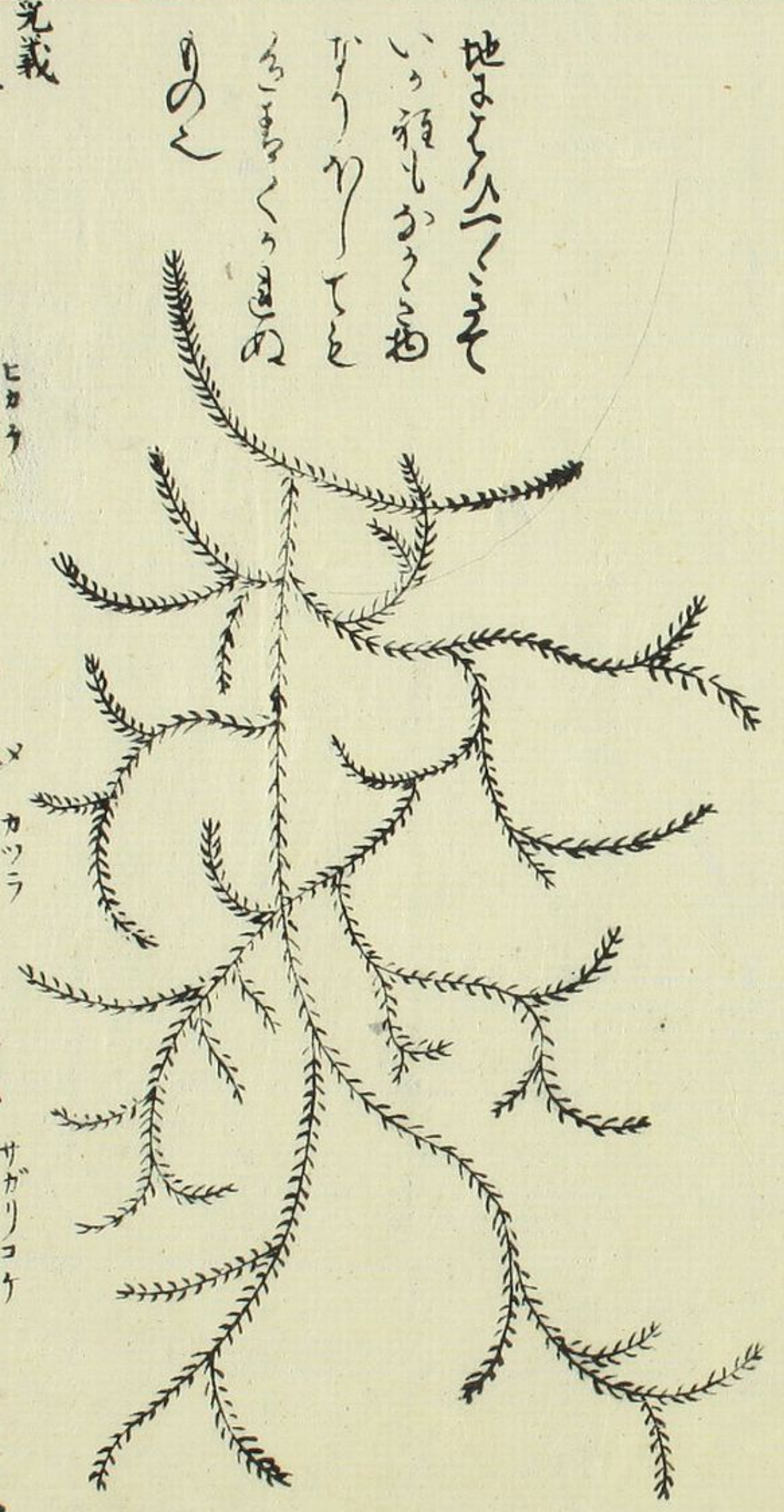
七下

重袴一腰扇一枚錦鞋一足。○辰日 日蔭 鬘赤  
 紐青摺唐衣一領泥繪裳一腰茜染打袴一重  
 同三重袴一腰扇一枚錦鞋一足。○傳唐衣裳  
 ○童汗衫柏單表袴下袴扇差櫛物忌紅薄  
 下仕褂打衣單唐衣裳袴。○樋洗上雜仕等裝  
 束略之

○神代卷般戸 猿女君遠祖天鈿女命以天香山  
 之真坂樹為鬘以蘿比為手繩略節

○延喜四時祭式供新 日蔭二荷略

○和名抄苔類蘿唐韻云日本紀私記



地よく人くま  
 いふ種しおろこ  
 たりやしてと  
 ちまきくうはの  
 のと

光載  
 按日蔭を蘿ヒカチといふ又ハ女蘿メカツラも或ハ下苔サカリコケといふり  
 俗名は狐乃キツネノと云ふといふり則我雄徳山オノトコあり  
 多くけり想おもへて北山乃遙湿ホノト比ヒよ生なむるはりこの

日くけ代<sup>タスキ</sup>ハ手<sup>タスキ</sup>端<sup>タスキ</sup>ヨ用ひ<sup>タスキ</sup>く<sup>タスキ</sup>き<sup>タスキ</sup>く<sup>タスキ</sup>き<sup>タスキ</sup>り  
 延喜式ヨ日<sup>タスキ</sup>蔭<sup>タスキ</sup>ニ<sup>タスキ</sup>行<sup>タスキ</sup>ト<sup>タスキ</sup>あ<sup>タスキ</sup>ふ<sup>タスキ</sup>是<sup>タスキ</sup>お<sup>タスキ</sup>り<sup>タスキ</sup>但<sup>タスキ</sup>後<sup>タスキ</sup>世<sup>タスキ</sup>よ<sup>タスキ</sup>ふ<sup>タスキ</sup>て  
 白<sup>タスキ</sup>糸<sup>タスキ</sup>と<sup>タスキ</sup>より<sup>タスキ</sup>合<sup>タスキ</sup>と<sup>タスキ</sup>あ<sup>タスキ</sup>ま<sup>タスキ</sup>り<sup>タスキ</sup>た<sup>タスキ</sup>よ<sup>タスキ</sup>く<sup>タスキ</sup>み<sup>タスキ</sup>く<sup>タスキ</sup>あ<sup>タスキ</sup>く<sup>タスキ</sup>ひ<sup>タスキ</sup>結<sup>タスキ</sup>と  
 い<sup>タスキ</sup>ひ<sup>タスキ</sup>日<sup>タスキ</sup>蔭<sup>タスキ</sup>乃<sup>タスキ</sup>ろ<sup>タスキ</sup>ろ<sup>タスキ</sup>と<sup>タスキ</sup>名<sup>タスキ</sup>付<sup>タスキ</sup>く<sup>タスキ</sup>男<sup>タスキ</sup>ハ<sup>タスキ</sup>冠<sup>タスキ</sup>乃<sup>タスキ</sup>た<sup>タスキ</sup>た<sup>タスキ</sup>り  
 八<sup>タスキ</sup>筋<sup>タスキ</sup> 組立一丈二尺計細  
凡組よはけく組とす <sup>タスキ</sup>そ<sup>タスキ</sup>く<sup>タスキ</sup>お<sup>タスキ</sup>り<sup>タスキ</sup>或<sup>タスキ</sup>ハ<sup>タスキ</sup>糸<sup>タスキ</sup>と<sup>タスキ</sup>組<sup>タスキ</sup>と  
 月<sup>タスキ</sup>ひ<sup>タスキ</sup>く<sup>タスキ</sup>く<sup>タスキ</sup>人<sup>タスキ</sup>と<sup>タスキ</sup>あ<sup>タスキ</sup>り<sup>タスキ</sup>是<sup>タスキ</sup>と<sup>タスキ</sup>ハ<sup>タスキ</sup>葉<sup>タスキ</sup>よ<sup>タスキ</sup>と<sup>タスキ</sup>く<sup>タスキ</sup>冠<sup>タスキ</sup>乃<sup>タスキ</sup>か<sup>タスキ</sup>ん  
 う<sup>タスキ</sup>く<sup>タスキ</sup>は<sup>タスキ</sup>ゆ<sup>タスキ</sup>と<sup>タスキ</sup>ひ<sup>タスキ</sup>く<sup>タスキ</sup>た<sup>タスキ</sup>く<sup>タスキ</sup>か<sup>タスキ</sup>り<sup>タスキ</sup>其<sup>タスキ</sup>ハ<sup>タスキ</sup>葉<sup>タスキ</sup>と<sup>タスキ</sup>ハ<sup>タスキ</sup>梅<sup>タスキ</sup>の<sup>タスキ</sup>結<sup>タスキ</sup>  
 花<sup>タスキ</sup>代<sup>タスキ</sup>佐<sup>タスキ</sup>枝<sup>タスキ</sup>ヨ<sup>タスキ</sup>甘<sup>タスキ</sup>と<sup>タスキ</sup>す

一日侍干老師<sup>干</sup>技紫式部<sup>紫</sup>日記之席<sup>席</sup>以其中  
 有五<sup>五</sup>節<sup>節</sup>舞<sup>舞</sup>姬<sup>姬</sup>之事<sup>事</sup>命<sup>命</sup>余<sup>余</sup>録<sup>録</sup>其<sup>其</sup>可<sup>可</sup>與<sup>與</sup>之<sup>之</sup>参<sup>参</sup>考<sup>考</sup>者<sup>者</sup>  
 故<sup>故</sup>嘗<sup>嘗</sup>騰<sup>騰</sup>寫<sup>寫</sup>所<sup>所</sup>聞<sup>聞</sup>就<sup>就</sup>而<sup>而</sup>正<sup>正</sup>焉<sup>焉</sup>則<sup>則</sup>附<sup>附</sup>之<sup>之</sup>干<sup>干</sup>卷<sup>卷</sup>末<sup>末</sup>矣  
 最不堪<sup>最</sup>報<sup>報</sup>愧<sup>愧</sup>云<sup>云</sup> 爾

享保十四己酉年臘月下弦  
 石清水社士  
 谷村光義



七  
八  
九

洛下書林

官位裝束指掌圖

全部一冊出來  
折本懷中本

此三音... 社...

九...





